

ほけんだより

いのちの学習 5年生号

鳥居松小学校

H28.12.8号

「いのちの誕生 - いのちについて考えよう - 」

5年生は、野外学習に行く前に、男子は射精、女子は月経について学びました。また、理科でこれから受精から誕生までの過程を学習します。これらの学習に合わせて、「いのち誕生」について学習しました。

子どもたちは、母親の子宮の中で胎児が成長していく様子を知り、命の神秘性や大切さに気付くことができました。授業の感想を一部ですが、紹介します。



わたしを産んでくれたお母さん、お父さんに感謝したいと思います。(Nさん)

いのちが誕生するには10か月もかかるんだと知った。(Tさん)

お母さんが産んでくれたから長生きしたいです。(Sさん)

赤ちゃんはおなかの中でがんばって、生まれたんだと思った。(Fさん)

一人ひとりのいのちはひとつしかない。もつといのちを大切にしたいです。(Yさん)

いのちってすばらしい。「よく生まれてきた！オレ」。(Oさん)

神様じゃなくて、誕生日は自分で決めると聞いて、自分はすごいと思いました。(Iさん)



生まれる前におなかの中でなにをしていたかは覚えていないけれど、いろいろなことをお母さんと協力してやっていたんだなあと思いました。(Tさん)

産んでくれたお母さん、お父さんに感謝しなければな、と思いました。(Iさん)

赤ちゃんは自分で血液を作ったり心臓を動かしたり、がんばって出てくることがわかりました。がんばったから赤ちゃんは、家族にめぐまれ幸せになるのだと思います。(Kさん)

赤ちゃんの最初(受精後4週間のころ)は0.01gだということを知って、びっくりしました。赤ちゃんを産むのは大変だけど、いのちが誕生することがうれしいと思います。(Hさん)

いのちというのはすごく大切なものだと思います。ほかの人の命も大切にしたいと思いました。(Sさん)

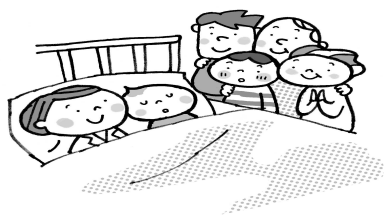


赤ちゃんは(受精後)4 週間で心臓が動き始めるって、意外と早いなと思った。(Gさん)

生まれてくるまでお母さんが栄養をくれて成長したことを知って感謝しています。大切に生きないとなあと思いました。(Fさん)

ぼくたちが生まれたのはきせきだと思います(Oさん)

(おなかの中で)お母さんにも助けてもらっているけれど、自分でしていることもあるんだなと思いました。(Sさん)



赤ちゃんが自ら血を作っているというのは初めて聞きました。お母さんが二人分の栄養をとっていたのはすごいなと思いました。今私が生きているということに感謝したいです。(Hさん)

お父さんとお母さんにもらったいのちだから、そまつにあつかわず、これから先の未来、貴重にあつかっていきたいです。(Oさん)

お父さんとお母さんがいたからぼくを産んでくれた。いのちをつくって産むということがどんなに大変かがわかりました。(Fさん)

いのちというものは、すごい確りつで生まれてきているということをはじめて知りました。(Fさん)



いのちのはじまり「受精卵」は、0.14mmです。受精して4週間経つと、血液を作り、心臓が動き始めます。その時の胎児(胎芽)の大きさは10mm。小さくても自分で生きようとする力をもっています。そして、38週間を母胎内で母親から栄養と酸素をもらい、すくすくと成長し、約50cm、3000gまで育ち生まれてきます。

今では、3倍近い身長と10倍くらいの体重までに成長しています。その事実には、子どもたちは感動し、親への感謝の気持ちを持ち、命の大切さについてしっかりと考えてくれました。

5年生も、あと3か月すると最高学年になります。これからの3か月もさらに成長し、4月からは、下級生に思いやりの心をもって接してくれる立派な6年生として活躍してくれそうです。期待しています。

